

JIRON KOHON I

安倍・トランプ両首脳が蜜月ぶりアピール

国際ジャーナリスト

泉 洋海

日米首脳会談の “気になる” 成果と課題

「シンゾーならどう言うだろう」

米国のトランプ大統領は11月、初のアジア歴訪に臨んだ。最初の訪問地として日本を選び、その後、韓国、中国、ベトナム、フィリピンを訪れ、アジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議や、米・東南アジア諸国連合（ASEAN）首脳会議にも出席した。

日本では、衆院選で大勝した安倍晋三首相と会談し、核実験やミサイル発射を繰り返す北朝鮮への圧力を最大にすることで一致。北朝鮮による拉致被害者家族らとも面会するなど、日米の結束と同盟の重要性を確認した。

もう一つの課題となっていた貿易・通商問題では、新たな進展はなかった。

トランプ大統領によるアジア歴訪のポイントはもちろん、核実験やミ

サイル発射を繰り返す北朝鮮への圧力強化へ、各国の結束を図ることだった。

それゆえ、最初の訪問地となる日本では、強固な日米関係をアピールする必要があった。

トランプ氏は5日、大統領専用機（エアフォース・ワン）で米横田基地に降り立った直後、米国兵や日本の自衛隊員らを前に演説。北朝鮮を念頭に「誰でも、どこの独裁者、どの政権、どの国であっても、米国の決意を過小評価することがあってはならない」とし、先制パンチを浴びせた。

その一方で、日米同盟については冒頭に「日本は米国の大切なパートナーであり、欠くことのできない同盟国だ」と讃えた。

会談で両首脳は、今こそ日米が北朝鮮に「最大限の圧力をかけて臨む局面」であるとの認識で一致。

安倍首相は、北朝鮮に対し日本が課している独自制裁をさらに強化し、同国の35団体・個人について資産を凍結すると伝えた。

会談後の会見で安倍氏は「日米は100%共にあることを力強く確認した」と話した。「かつてない」と言われる両首脳の良い関係性を背景に、北朝鮮に対し日米の結束をアピールするという当初の目的は達成されたようだ。

また、今回、トランプ氏は横田めぐみさんの母・早紀江さんら北朝鮮の拉致被害者家族とも面会し、約30分にわたり話を聞いた。トランプ氏は「拉致された被害者が家族の元へ戻れるよう、安倍氏と力を合わせていく」と述べ、解決に向けた努力を約束した。

「シンゾーならどう言うだろうか」――。

トランプ氏は、ことあるごとにそ

う周囲に漏らしているという。安倍氏とトランプ氏はなぜか波長が合うようだ。さまざまな政治状況や環境が違っているのにも関わらずだ。

例えば、安倍氏は先の衆院選に勝利したばかりで、衆院・参院選で5戦5勝の強い首相だ。一時は下がっていた内閣支持率も今では一段落している。一方のトランプ氏は38%と過去最低水準の支持率に喘ぐ。

さらに、環太平洋連携協定（TPP）を進め、今は米国を除く11カ国による協定を目指す安倍氏に対し、トランプ氏はTPPからの脱退を決め、2国間の再交渉を模索するなど大きな違いがある。

ただ、安倍氏は、トランプ氏が大統領選で勝利を決めた後、就任前にニューヨークのトランプタワーに最初に会いに行った首脳だ。

トランプ氏はこれまでに、何人もの部下達をテレビ番組しながらクビ

(首相官邸)



安倍氏はトランプ氏の「本当の腹づもり」を読めたのだろうか……

にして来た。気に入らなければクビにする。彼らの言うことを聞き入れるような性格ではない。

意見を聞くなら同僚だが、同僚と言っても、これまでのビジネス仲間の助言は大統領の職務に通じるものではないだろう。

そこで、頼りにするのは「シンゾー」ということになるらしい。

トランプ氏と安倍氏との会談は今回で5回目。電話会談は16回にも上る。「シンゾーの言うことならよ

く聞く」とワシントンの関係者。

北朝鮮への圧力強化も安倍氏の意見が影響しているのではないかといわれる。それゆえ、北朝鮮への対応において、安倍首相の役割は重要になつているということだ。

今回の訪日も安倍氏は、トランプ氏との親密な関係を深めるため、まずゴルフとハンバーガーによる接待から始めた。男子ゴルフの松山英樹選手も呼んで、共にプレーする歓待ぶり。

安倍氏に見れば、トランプ氏の滞在中、なるべく2人で親密に話ができるよう気を配ったということらしい。

「現在、日米関係はかつてないほど良好です」——。トランプ氏は、天皇・皇后両陛下との会見でもそう言つて見せた。

気になる有事の際の邦人退避

とは言え、実際の首脳会談では、北朝鮮を巡り、米国による軍事行動や有事になつた際の邦人待避などシビアな側面についても議論されたと見られる。

トランプ氏は従来から「あらゆる選択肢がテーブルにある」と発言しているし、安倍氏もこれを支持する姿勢を見せている。さらに、トランプ氏の訪日前、米国のマクマクスター大統領補佐官も報道各社のインタビューに答え「同盟国などとの間で、軍事的な努力の可能性を議論しないのは無責任だ」などと語っていた。

会談後の会見では両首脳は軍事行動の可能性について言及を避け、政府も韓国からの邦人待避などについて話題にならなかったと説明してい

る。

だが、日米双方とも、北朝鮮への制裁効果が出て来る今後、年末から年始にかけて、北朝鮮問題が緊張度を増してくるのではないかと憶測が高まっている。

最後まで、対話の可能性を探るとは言え、ひとたび米国が軍事的な選択肢に踏み出すと、日韓への影響は計り知れない。このため日本はトランプ氏の腹づもりを知る必要があるが、その辺の呼吸は読めたのだろうか。

日米首脳会談で「北朝鮮への圧力を最大限にする」とのアピールを揃つて打ち出すことはできたが、効果を上げるには中国とロシアがカギになる。日本での結束を元に両国の協力を取りつけることができるかどうか、北朝鮮制裁の成否を握ると言えそうだ。

また、アジアにおける権益拡大が著しい中国に対し、安倍氏が昨年打ち出した「自由で開かれたインド太平洋」戦略で、米国と合意できた意味も大きい。

今後、楔にはなるだろうが、実質的な効果が出るかどうかは見通せない。